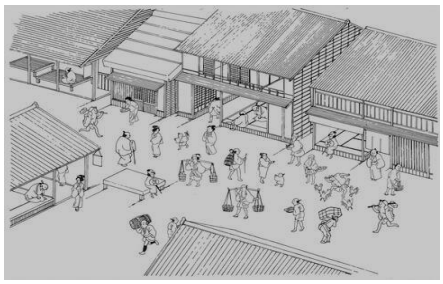
活動報告;第262回例会　地名探訪

歩いて感じる藤沢宿
～周辺のいま･むかし～

2022.11.22(火)　　岡見みどり 記



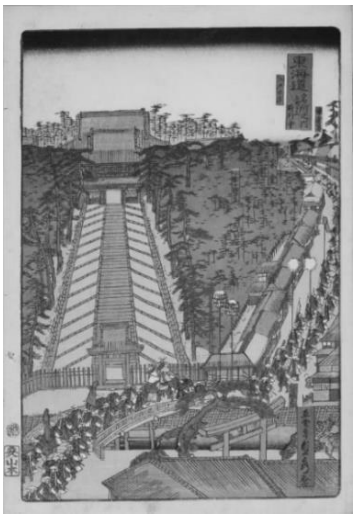
11月22日（火）・23日（水・祝）の２日間の予定でしたが、２日目・予備日とも悪天候が懸念されたため、残念ながら中止しました。参加者は会員24名、一般12名（全員藤沢市民）計36名でした。

午前のコースは、藤沢駅サンパール広場から江の島道を庚申堂・江ノ島弁財天道標・砂山観音堂・藤沢橋を渡り、東海道を感応院・遊行寺です。午後は、ふじさわ宿交流舘で昼食後、江ノ島一の鳥居跡・高札場跡・桔梗屋・関次商店を巡り、常光寺・妙善寺・荘厳寺・永勝寺飯盛女の墓・伝義経首洗い井戸でした。度重なる火災や宿駅の廃止・都市化で、往時を知ることは難しくなりましたが、歴史に名を連ねる人々の足跡が数多く残され、歴史を実感した探訪でした。

藤沢市では、2014年に「街なみ百年条例」を制定し、重点的に景観の保全・活用を進める「街なみ継承地区」第１号に藤沢宿周辺を指定しています。砂山観音堂の高台から遊行寺本堂を見下ろすと、橙色のガソリンスタンドの看板が薄茶色に、旧東海道の電線が埋没化され、景観が格段に良くなっています。近年、桔梗屋や関次商店の明治期の蔵が国登録有形文化財（建造物）に指定されました。桔梗屋は藤沢市の所有に、関次商店の穀物蔵はベーカリー、肥料蔵はフラワーショップとして再利用されています。

関次商店　穀物蔵

感応院（源実朝が開基）のある大鋸の地名は、遊行寺の造営にあたった大鋸引き（おおがひき）職人が集住したことに由来します。遊行寺が兵火で焼失後は、小田原北条氏の職人衆として玉縄城の修復にも出向いています。大鋸引きの棟梁の森家は伝馬役も任ぜられており、藤沢宿はここから発展していきます。



東海道名所之内　ふちさハ
遊行寺（歌川貞秀作）

藤沢市域には小田原北条氏の家臣や武士から帰農した由緒をもつ家があり、藤沢宿でもそうした家が名主や役人として宿場の運営を担いました。古くからの家が農業や旅籠屋を経営する一方、次第に紀州や近江商人の出店、小売商人や交通系の労働者等の集住が進み、藤沢宿は境川を挟んで西へと発展していきます。嵯峨清涼寺釈迦如来と信州善光寺式阿弥陀三尊の前立本尊が常光寺で出開帳を行っており、藤沢宿の商人たちの経済力の大きさを感じます。今回、ご厚意により出開帳の折りの釈迦如来画像、前立本尊御影の掛け軸二幅を拝見させていただくことができました。

地名講演会の一昨年の平野雅道氏の「再発見！藤沢宿坂戸町浄土宗常光寺の歴史」、昨年の形井秀一氏の「日本の鍼術発展に功績のあった杉山和一と江ノ島」、髙野修氏の「藤沢と遊行寺」は、今回の藤沢宿を訪問する際に参考になりました。会報やHPに掲載されておりますので、ご覧ください。